

# 2012年度主要国・地域における流通構造調査

==イチゴ編==

2013年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）  
農林水産・食品部 農林水産・食品調査課

※本書に記載している内容は、文中に特別な記載のない限り、2013年3月までに実施した現地調査の情報に基づくものです。

【免責事項】ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性に知らされていても同様とします。

## 目次

はじめに .....	2
日本産イチゴの品種「あまおう」、「ひのしずく」のブランドが定着（香港）	3
割高な日本産イチゴは他国産と差別化できる大玉の輸出が中心（台湾） ....	6
日本産は高級品、ブランディングが重要（シンガポール） .....	10
アンケートのお願い .....	14

## はじめに

日本から農林水産物・食品を輸出するにあたり、流通（物流）や、現地市場での価格競争が課題となるとの声が寄せられています。こうしたなか、主要国・地域における流通（物流）やそのプロセス毎のコスト構造を明らかにするため、主要国・地域における流通構造調査を実施いたしました。

本報告書は、日本の中小企業の皆さま向けに作成しておりますが、農林水産物・食品輸出に取り組む方のみならず、農林水産物・食品産業に関わる皆さまのお役に立てば幸甚です。

2013年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）  
農林水産・食品部  
農林水産・食品調査課

日本産イチゴの品種「あまおう」、「ひのしずく」のブランドが定着（香港）  
（香港事務所発）

香港に輸入されるイチゴは、空輸されている。従来から香港に輸入されている「あまおう」、「ひのしずく」は、日本産イチゴ輸入の大半を占めており、日本産イチゴのブランドとして定着している。香港の店頭では、日本国内の店頭価格に比べて2倍以上するが、売れ行きは好調であり、今後も、日本産イチゴの堅調な輸入が期待される。

〈福岡空港から定期的に空輸〉

香港で人気の高い「あまおう（福岡産）」「ひのしずく（熊本産）」は、いずれも福岡空港から空輸されている。ヒアリングした輸入業者は、週2便のペースで定期的に輸入しており、輸入日の1週間前に日本の輸出商社へ発注する。空輸されたイチゴは空輸日の翌日には、香港の店頭で販売することが可能であり、品質を維持した状態で消費者へ提供できる。仮に海上輸送した場合には、輸出港船積み日から小売店への納品まで約6日間かかるため、イチゴの品質維持の点から、海上輸送による輸入は確立していないのが現状である。

日本産イチゴは、香港市場でブランドが定着していること、イチゴの販売はクリスマスおよび旧正月シーズンであることから、1パック（300グラム）当たり100HKドル（約1,100円）以上と、大きな価格変動なく高値で販売されている。日本から輸送する際には、1パック（300グラム/100HKドル）当たり、30HKドルの空輸コストが生じてしまうことも、高値で販売されている一因である。

〈日本産イチゴに対する大きな期待〉

2011年における日本産イチゴの輸入金額は、前年比36%増の1,074万HKドルと、順調に推移しており、今シーズン（2012年12月～13年3月）の輸入も、増加が見込まれる。

ヒアリングした輸入業者は、香港の小売業者、日本の輸出商社とともに生産現場を視察し、今後の輸入を検討するなど、日本産イチゴに対する大きな期待を寄せている。また、香港の輸入業者や小売業者は、「あまおう」「ひのしずく」以外にも差別化が図られれば、香港市場に浸透するのではと予測しており、日本の他産地からの輸入も前向きに検討する意向である。

一方で、日本産に比べ2分の1以下の価格帯である韓国産や米国産のイチゴ  
Copyright © 2013 Japan External Trade Organization, JETRO. All rights reserved.  
禁無断転載

も、11年は前年比約40%増の輸入金額で推移しており、他国産との競合も視野に入れる必要がある。もし、リーファーコンテナによるイチゴの海上輸送が確立できれば、輸送コストが削減され、日本の店頭価格に近い販売が可能になり、さらなる市場拡大が見込まれる。

(川原 新一郎)

## 香港

## イチゴの流通経路・時間等

表1. 流通（物流）経路、時間、および商慣習

流通（物流）経路	所要時間 （日数）	備考
生産者団体 ↓ 輸出商社 （指定倉庫）	1	輸入業者が輸出商社に対して、空輸日の1週間前に発注。
輸出商社 （指定倉庫） ↓ 空輸 ↓ 通関 ↓ 輸入業者 （指定倉庫）	1	
輸入業者 （指定倉庫） ↓ 当社小売店	1	

（資料）日系小売店、日本食品取扱輸入業者へのヒアリングによりジェトロ香港事務所作成  
Copyright © 2013 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

## 香港

## イチゴの流通費用

表2. 流通（物流）費用

場面	コスト					商慣習等	
	項目	（税）率等	計算内容	価格（累計）	出荷額=100		
生産者団体 ↓ 輸出商社					A	100	
輸出商社 （指定倉庫）	マージン	80%	$100 \times 80\% = 80$	180	B	180	輸出商社によりそれぞれだが、輸出手続きを含めて、仕入れ値の50～80%を上乗せして出荷
輸入商社 （指定倉庫） ↓ 空輸 ↓ 香港通関	基本関税	0			C		
	通関手数料 空輸コスト	30%	$B \times 30\% = 54$	234	D		輸送コストおよび通関手数料は、仕入れ値の30%を計上
輸入商社 ↓ 小売業者	マージン （香港内輸送費込み）	40%	$B \times 40\% = 72$	306	E	306	輸入商社は、香港内輸送費込みでマージン40%を上乗せして、小売業者へ販売
小売業者 ↓ 消費者	マージン		$E \times 30\% = 92$	398	F	398	小売業者は、輸入商社からの仕入価格の30%を上乗せして店頭販売

（注）表は複数の業者へのヒアリングにより概要をまとめたものであり、全ての業者に当てはまるものではなく、また表で記されている諸費用を全て網羅しているわけではない。

（資料）日系小売店、日本食品取扱輸入業者へのヒアリングによりジェトロ香港事務所作成  
Copyright © 2013 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

## 割高な日本産イチゴは他国産と差別化できる大玉の輸出が中心（台湾）

（交流協会台北事務所発）

2012年12月から翌年1月にかけて、台湾で日本産イチゴを取り扱うインポーター数社へのヒアリングおよび日本産イチゴの小売状況調査を行った。日本産イチゴの輸入状況、流通状況、輸入にかかる問題点等について報告する。

### 〈日本産は輸入全体の約5%程度〉

日本から台湾に生鮮イチゴを輸出する際には、台湾において20%の輸入関税が課される。また、台湾に生鮮イチゴを輸出している国としては、米国、ニュージーランド、日本、韓国があるが、台湾における輸入生鮮イチゴ全体のうち日本産の占める割合は概ね5%前後で推移している。

### 〈際立つ「あまおう」の存在感〉

日本産イチゴは高級フルーツに該当し、台湾における販売場所（小売先）としては、高級百貨店内のスーパーに加えて、高級フルーツ専門店も該当する。2013年1月時点で、台北市内の高級百貨店（「微風広場」、「太平洋 SOGO 復興館」、「太平洋 SOGO 忠孝館」）内スーパーでは、日本産ではいずれも福岡県産「あまおう」のみが販売されていた。

台湾側インポーターによると、日本産イチゴでは、台湾では福岡県産「あまおう」の取扱が最も多い（注）。それ以外にも、高知県産、香川県産、徳島県産の輸入実績がある

### 〈日本からの輸入にかかる問題点(1)：日本側担当者の交代に伴う台湾向け直接輸出ルートの縮小、変更〉

イチゴの輸出を主に担う日本の地方自治体における輸出促進担当部署、JA等の公的セクター担当者は2、3年で交代する場合がある。担当者交代後、それまでその地域から台湾へ直接輸出に廻していた分を日本国内向け出荷等に切り替えるケースが発生しており、台湾側インポーターとしては春節向け商戦等のかき入れ時に数量が足りなくなるという事態も発生している。

担当者交代後、輸出向けよりもまずは日本の中央市場に廻す傾向が見られるが、結局その分、日本の中央市場で台湾側が買うようになるだけの話であり、中央市場に利益が取られるのは日本側産地、台湾側バイヤー双方にとってメリットがない。

### 〈日本からの輸入にかかる問題点(2)：高価格な日本産イチゴは他国産との差別化が必要〉

日本産は他国産よりも価格が高いケースが多く、他国産と何らかの差別化がなされていないならば、わざわざ高い日本産を買う必要はない。例えば、日本産イチゴの場合、大サイズのイチゴを詰めた一パック6～8玉入りのものが贈答用として重宝されているが、中サイズ以下のイチゴを詰めた一パック9玉以上のものになると、見た目では他国産との差別化が難しくなるため、高価格の日本産イチゴの販売は難しい場合がある。

ただし、日本の産地側としても、日本国内においてニーズの高い大玉だけを大量に台湾向け輸出にまわすのは難しいという事情があり、年によっては、春節等の贈答商戦時期に、台湾側インポーターが日本産大玉を十分な量確保できず、台湾内における需要量を満たしていないケースなども散見される。つまり、台湾における高級百貨店でニーズがあるにもかかわらず、日本から十分な量の大き玉を仕入れることができない場合があるのだ。

台湾向けに日本産イチゴを輸出するにあたっては、現地では高価格の商品となるため、現地消費者に春節向け贈答用などで日本産を選んでもらえるよう、大きさなどで他国産イチゴとの差別化を図る必要がある。また、台湾における日本産イチゴの小売先としては、高級百貨店内のスーパーだけではなく、台湾ならではの1店舗型のフルーツ専門店も該当するため、そういった先やそこに卸しているインポーターへの販売促進活動も効果的であると考えられる。

注：なお、糖度の高いフルーツに慣れている台湾人消費者から見ると、「あまおう」は糖度が足りないと感じる向きもある。

(中山 幸英)



表 1. 台湾向けイチゴ輸入量の推移

単位：トン

アイテム名 (CCC Code)	輸入国	2008	2009	2010	2011
イチゴ (810100000)	日本	25.99	22.76	34.00	23.69
	韓国	9.77	18.37	20.64	21
	ニュージールランド	26.25	53.17	42.46	56.63
	米国	394.36	389.66	385.55	370.19
	合計	456.37	483.97	482.64	471.52
	日本産シェア	5.70%	4.70%	7%	5%

出所：台湾財政部関税総局、輸出入統計

## 台湾

## イチゴの流通経路・時間等

表 2. 流通（物流）経路、時間、商慣習

流通（物流）経路	所要時間 (日数)	備考
生産者(メーカー) ↓ 輸出業者	数時間	夜、イチゴを詰め出荷。
輸出業者 ↓ 通関(福岡空港)	数時間	出荷翌日の朝6時には通関。同日午前11時頃のフライトに積載。
航空輸送	数時間	上記と同日午後の早い時間に台湾に到着。
通関(台北桃園空港) ↓ 輸入業者	数時間	通常であれば、上記と同日午後に台湾で通関終了(通関検査等で時間を要した場合には、翌日になる場合もある)
輸入業者 ↓ 小売業者(高級百貨店)	数時間	(台北向け) 上記と同日夜には、百貨店に搬送完了 (高雄向け) 同日深夜(24時頃)には高雄向けに出荷。翌日早朝には高雄の市場に並ぶ。
小売業者(高級百貨店) ↓ 一般消費者		

(資料) 各社へのヒアリングより交流協会台北事務所作成

Copyright © 2013 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

## 台湾

## イチゴの流通費用

表3. 流通（物流）費用

場面	コスト						商慣習等
	項目	(税) 率等	計算内容	価格 (累計)	出荷額=100	輸入価額=100	
輸出形態 ↓ ロット	航空輸送 600グラム〔パック (7玉サイズ・7個) × 2〕						
生産者 (メーカー) ↓ 輸出業者	出荷額 + 国内輸送費			483NT\$	A	100	
輸出業者 ↓ 通関 (福岡空港)	航空輸送費等	13% 注1	$A \times 13\% = 63 \text{ NT\$}$	546NT\$	B	113	混載した輸送物全体に対し600グラムが占める割合を計算し、航空輸送料金全体にその割合を掛けることにより左記料金を算出（輸送毎に変動する）
通関 (台北桃園空港) ↓ 輸入業者	輸入額			546NT\$		100	
	関税	20%	$B \times 20\% = 109 \text{ NT\$}$	655NT\$	C	136	120
	通関手数料		100NT\$	755NT\$	D	156	138
							通関手続きにかかる諸経費
輸入業者 (卸売業者) ↓ 小売業者 (高級百貨店)	マージン	10%	$D \times 10\% = 76 \text{ NT\$}$	831NT\$	E	172	152
	国内輸送費	注1		-			
	付加価値税	5%	$E \times 5\% = 42 \text{ NT\$}$	873NT\$	F	181	160
							付加価値税(VAT)は5%
小売業者 (高級百貨店) ↓ 一般消費者	マージン	20%	$F \times 20\% = 175 \text{ NT\$}$	1,048NT\$	G	217	192
	付加価値税	5%	$G \times 5\% = 52 \text{ NT\$}$	1,100NT\$		228	201
							付加価値税(VAT)は5%

- (注) 1. 台北での国内輸送費は、航空輸送費等(13%)を含む。  
 2. 通貨換算：1NT\$ = 3.05円（2013年1月11日現在）  
 3. 表は各社へのヒアリングにより概要をまとめたものであり、全ての業者に当てはまるものではない。
- (資料) 各社へのヒアリングにより交流協会台北事務所作成。

Copyright © 2013 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

## 日本産は高級品、ブランディングが重要（シンガポール）

（シンガポール事務所発）

日本産イチゴは高級果物としてシンガポールに流通している。米国産や韓国産は地元スーパーではよく見かけられ、その価格は日本産と比べ半分以下である。日本産イチゴはどのようなルートで、どのくらいのコストがかかって一般消費者の手元に届くのかを、事業者へのヒアリングをもとにまとめた。

### 〈日本産イチゴ、輸入全体の1%〉

2012年シンガポールのイチゴ輸入額は、対前年比0.2%増の2,270万USドルで、輸入量は同0.4%減の3,028トンと、金額・数量ともに横ばいであった。輸入国別でみると、1位は米国（1,039万USドル、1,488トン）、2位は韓国（856万USドル、909トン）であり、この2カ国でシンガポールのイチゴ輸入全体の約8割のシェアを占めている。日本からの輸入額は24万USドル（対前年比5.9%減）、輸入量は9トン（前年と同じ）で全体の6位に位置している。金額ベースのシェアは1%程度と2010年からの3年間、ほぼ変わっていない（表1）。

シンガポールで日本産イチゴを販売しているのは、伊勢丹や明治屋といった日系小売店である。地場系スーパーのNTUC Fairprice、Cold Storageなどは、駐在員や高所得者層が多く居住するセントラルエリアにある一部の店舗で取り扱う。また高級果物として浸透しているため、贈答用としても利用され、入院患者向けのお見舞い品として病院内の売店で売られることもある。また、ウェットマーケット（一般市民向けの市場）でも取扱う業者がおり、その場合は主に富裕層の得意先からオーダーを受けて仕入れている。

日系スーパーで福岡産あまおうは1パック（大粒8個入り）25.90シンガポール・ドル（1シンガポール・ドル＝約75円：2013年3月末）で販売されているのに対し、韓国産は1パックあたり6.90～12.90シンガポール・ドル、米国産は1パック（375グラム）9.45シンガポール・ドルで販売されていることから、日本産と米国産、韓国産との間には非常に大きな価格差が存在することがわかる。

日本産イチゴは冬から春にかけて生産量が多くなり、同時期にシンガポール向けに輸出されている。11月頃から始まって、12月から3月が最も輸出量が多くなり、5月初めにはほとんど輸出がなくなる。韓国産イチゴはこれとほぼ同じ傾向が見られるが、米国産は日本産、韓国産がほとんどなくなる5月過ぎから

Copyright © 2013 Japan External Trade Organization, JETRO. All rights reserved.

禁無断転載

輸出量が増える傾向にある。

#### 〈出荷の翌日には店頭へ並ぶ〉

イチゴは収穫後、賞味期間が短いことから、輸出の際は航空機による輸送が不可欠である。シンガポールに輸入されているイチゴは福岡県など九州産のものがほとんどで、これらは福岡空港発の航空便を利用している。表 2 の通り、生産者から一般消費者に届くまでに要する時間は、1 日半から 2 日程度である。産地が九州であれば、一般的な輸出書類に加え、原産地証明書を添付すればよく、シンガポールでの通関時に放射線検査は実施されない。よって最短で国内出荷の翌日朝には当地のスーパーに並ぶこととなる（表 2）。

シンガポール向けの輸出において発生する物流費用は、国内輸送費、航空輸送費、通関諸経費、輸入業者や小売業者のマージン、付加価値税である。シンガポールではイチゴに関税はかからない。シンガポール国内の輸送費や売れ残りによる廃棄ロス、利益等を加味すると、輸入業者および小売業者のマージンは 30～50%程度となっている。結果として、シンガポールの一般消費者に届く時には日本国内で出荷した価格の 3 倍弱になっている（表 3）。

#### 〈販売ターゲットを明確に〉

日本産青果物は総じて価格が高い。イチゴについては日本産とそれ以外の米国産や韓国産を比較すると、店頭での販売価格は倍以上の差があるのが現状だ。品質（味）は日本産に優位性があるものの、最近では韓国産の品質が日本産に近づきつつあるとの声も聞かれる。

シンガポールでは販売ターゲットを明確にした戦略が重要である。生産から物流までを含めたトータルコストの削減に努め、一般消費者でも「手の届く」商品にすることも選択肢の一つである。ただし、引き続き高級果物として富裕層向けに販売していくためには、栽培の様子などを説明し「なぜおいしいのか、なぜ高級なのか」を消費者に理解してもらう取り組みなどブランドイメージをより強固なものとするのが重要だ。

（澤田 信吾）

表1. シンガポールの国別イチゴ輸入額および輸入量

国名	輸入額(100万USDドル、%)					輸入量(トン、%)				
	2010年	2011年	2012年	対11年比	12年シェア	2010年	2011年	2012年	対11年比	12年シェア
1 米国	7.69	10.03	10.39	3.6%	45.8%	1,298	1,499	1,488	▲ 0.7%	49.1%
2 韓国	7.75	8.99	8.56	▲ 4.8%	37.7%	1,239	995	909	▲ 8.6%	30.0%
3 オーストラリア	1.91	1.82	1.64	▲ 9.9%	7.2%	282	287	284	▲ 1.0%	9.4%
4 ニュージーランド	0.86	1.11	1.02	▲ 8.7%	4.5%	118	158	147	▲ 7.0%	4.9%
5 エジプト	0.46	0.37	0.72	95.0%	3.2%	111	81	172	112.3%	5.7%
6 日本	0.25	0.26	0.24	▲ 5.9%	1.1%	9	9	9	0.0%	0.3%
全世界	19.16	22.66	22.70	0.2%	100.0%	3,112	3,040	3,028	▲ 0.4%	100.0%

[出所]World Trade Atlas

## シンガポール イチゴの流通経路・時間等

表2. 流通（物流）経路、時間、商慣習

流通（物流）経路	所要時間 (日数)	備考
生産者/(卸売業者) ↓ 輸出業者	1日	市場で競り落とされる。
輸出業者 ↓ 通関（福岡空港）		事前通関を実施。
航空輸送		
通関（シンガポール空港） ↓ 輸入業者	数時間 ~ 1日	事前通関を実施。 産地によって放射線検査の要否が定められており、検査時間は1日程度。到着日の夜には結果が出る。問題無ければ出荷が可能となる。
輸入業者 ↓ 小売業者（スーパー等）	1時間程度	輸入者が小売店舗まで配送。
小売業者（スーパー等） ↓ 一般消費者		日本から小売店舗に並ぶのに1日半程度かかる。

(資料) 各社へのヒアリングよりジェトロシンガポール事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

## シンガポール イチゴの流通(物流)費用

表3. 流通(物流)費用

場面	コスト						商慣習等	
	項目	(税)率等	計算内容	価格(累計)	FOB額=100	輸入価額=100		
生産者 ↓ 輸出業者	出荷額、国内輸送費等			3,200S\$	A	100	輸入業者が生産者/卸売業者に注文。指定日までに卸売業者が指定倉庫へ輸送	
輸出業者 ↓ 通関(日本)	航空輸送費等	5%	AX5%	3,360S\$	B	105		
通関(シンガポール) ↓ 輸入業者	輸入額			3,360S\$	C	105		
	基本関税	0%	0S\$	-			イチゴのシンガポールの関税は無税	
輸入業者(卸売業者) ↓ 小売業者 (日系百貨店)	通関手数料		500S\$	3,860S\$	D	121	115	
	マージン	40%	DX40%	5,404S\$	E	169	161	30%~50%程度
小売業者 (日系百貨店) ↓ 一般消費者	付加価値税	7%	EX7%	5,782S\$	F	181	172	付加価値税(GST)は7%
	マージン	40%	FX40%	8,095S\$	G	253	241	30%~50%程度
	付加価値税	7%	GX7%	8,662S\$	H	271	258	

(注) 1. 通貨換算: 1S\$=75円

2. 表は数社へのヒアリングにより概要をまとめたものであり、全ての業者に当てはまるものではなく、また表で記されている諸費用は全てを網羅しているわけではない。

(資料) 各社へのヒアリングよりジェトロシンガポール事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

アンケートのお願い

本報告書をご覧いただきありがとうございました。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきたく、アンケートにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。以下の URL 先からご回答ください。

[https://www.jetro.go.jp/form5/pub/afc/12\\_distribution](https://www.jetro.go.jp/form5/pub/afc/12_distribution)

**海外における流通構造==イチゴ編==**

2013 年 3 月作成

---

作成者 日本貿易振興機構（ジェトロ）  
農林水産・食品部 農林水産・食品調査課  
〒107-6006 東京都赤坂 1-12-32 アーク森ビル 6 階  
Tel : 03-3582-5186 FAX : 03-3582-7378  
E-mail : AFC@jetro.go.jp

---